

京都市帝國大學法學科大學

經濟論叢

大正五年八月一日發行

第二號

第三卷

論說

國防稅ノ本質

でがゐるご・ひゆるむノ經濟學說(四)

資本ノ眞概念ノ發展(三)

戰後ノ人口増加政策(二)

支那近代ノ戸口ニ就テ(三)卷

在外正貨ト兌換券ト關係ヲ論ズ

雜錄

服部氏國際經濟論ニ對スル向井氏ノ批評

瀧本誠一氏ノ草茅ニ就イテ危言ニ就イテ摘義ニ就イテ解題ニ就イテ

福田博士ニ答フ

戰時利得稅ノ諸學說及實例

英吉利ノ新稅

米國ニ於ケル船舶買收法案ニ就テ

經濟雜誌第五

統計書ノ概說

らぐれー「ミール」學說ノ研究(三)

『通俗經濟文庫』ノ刊行

『經濟大辭書』ノ完成

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 河上 肇

米田庄太郎

内藤虎次郎

小川郷太郎

河上 肇

鈴木券太郎

本庄榮治郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河田 嗣郎

法學博士 岸本熊太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 財部 靜治

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

法學博士 神戸 正雄

(載 轉 禁)

英吉利の新稅

河田 嗣 郎

一 先般公ニサレタル英吉利ノ新豫算ハ前年度ニ比シ又更ニ驚ク可キ膨脹ヲ示シテ居ル。經費ノ總額ハ實ニ十八億二千五百萬磅デアツテ、就中五億九百萬磅ハ普通歲入ニ依ツテ之ヲ賄フモノトセラレ、其ノ歲入ヲ得ルガ爲メニハ、六千五百萬磅ノ新稅及ビ增稅徵收ガ企テラレタ。此ノ夥シキ歲出ハ之ヲ一日當リニシテ見レバ即チ一日五百萬磅ニ當ルノデアアル。又驚クニ堪ヘタルモノト云ハナゲレバナラス。

之ヲ前年度ニ比較スレバ新豫算ハ歲入ニ於テ一億七千三百萬磅ノ增收ヲ要スルノデアツテ、此ノ増加額ダケデ以テ減債費ヲ除キタル一九一三—一四年度ノ總經費ヲ充スニ足リル。換言ス

レバ新豫算ガ前年度ニ比シテ示シテ居ル歲入増加額ダケデ以テ優ニ英國平時ノ總歲出ハ賄ヘテ行ケタ譯デアアル。仍テ之ヲ右戰前最後ノ年ニ比較スレバ本年度豫算ノ歲入増加額ハ、餘分利得稅 Excess Profits Tax (之ハ戰時特別稅トシテ新ニ設ケラレタルモノナリ) 收入八千六百萬磅ヲ加ヘテ正ニ三億一千萬磅ニ達スルノデアアル。英國民ニ取ツテハ驚ク可キ負擔增加ト謂ツベキデアル。

二 右ノ如キ驚ク可キ歲入増加ヲ得ムガ爲メニ新ニ設ケラレ若クハ增徵ヲ企テラレタル諸稅增收額ハ所得稅增徵豫定四千三百萬磅ト關稅及ビ消費稅增徵豫定二千百萬磅トヲ主トスル。左ニ新タニ設ケラレタル稅目ト其ノ課稅標準ト、增徵セララルコトトナツタ諸稅目ト其ノ增徵率トヲ示シテ見ヤウ。

(A) 新稅

- (一) 芝居、活動寫眞、フトボール仕合及ビ競馬ノ入場料賦課稅 (遊興稅) 其ノ稅率ハ半片コリ一志ニ及ブ。
- (二) 鐵道乘車券賦課稅 (交通稅) 之ハ英國内ニ初マリ英國内ニ終ル汽車旅行 (旅行ノ全部鐵道ニ依ルト其ノ一部分ノミ鐵

***** L'économiste européen, 5, mai, 1916.

1) The Times (weekly edition, April 14, 1916.
The Economist, May 13, 1916.

道ニ依ルトト中間(ハズ)ニ課スルモノト英國内ニ初マリ外國ニ到ルモノニ課スルノト其ノ稅率ヲ異ニスル。其率左表ノ如シ。

國內 (a) 九片以上一志以下ノ片道乘車券……………一
 (b) 一志以上ノ片道乘車券及ビ一志六片以上ノ各種乘車券……………一志及其端數每ニ一
 片

國外 (a) 一等乘車券……………四片
 (b) 二等乘車券……………三片
 (c) 三等乘車券……………二片

(三) 家庭用燃料稅(消費稅) 一 千本每ニ四片

(四) 飲料稅(消費稅) 一 砂糖ヲ用ヒ又ハ醗酵サセタル食卓飲料水ニハ「ガロン」ニ付キ四片。其他ノモノニハ八片「サイダ」及「ベリー」ニハ四片

(B) 増徴

(一) 所得稅 一 其ノ稅率新舊比較左表ノ如シ。

所得	舊稅率	新稅率
500磅以下……………	二片	三片
500—1,000磅……………	二片	三片
1,000—2,000磅……………	二片	三片
2,000—3,000磅……………	二片	三片
3,000—4,000磅……………	二片	三片
4,000—5,000磅……………	二片	三片
5,000磅以上……………	二片	三片

(ロ) 不勞所得 (unearned incomes) 一 但シ普通所得ト併セテ總

雜錄 英吉利ノ新稅

額ニ付キ

所得	舊稅率	新稅率
500磅ヲ超ヘザルモノ……………	二片	三片
500—1,000磅……………	二片	三片
1,000—2,000磅……………	二片	三片
2,000磅以上……………	二片	三片

(二) 發動機車稅 (motor cars) 一 其ノ新舊稅率比較左表ノ如シ

馬力(馬力)	舊稅率	新稅率
六ノ馬力ヲ超ヘザルモノ……………	二片	三片
六—十二馬力……………	二片	三片
十二—十六馬力……………	二片	三片
十六—二十馬力……………	二片	三片
二十—三十馬力……………	二片	三片
三十—四十馬力……………	二片	三片
四十—五十馬力……………	二片	三片
五十馬力……………	二片	三片

(三) 發動機付自轉車稅 一 四馬力迄ハ二磅二志。四馬力以上ハ同

(四) 砂糖稅 一 封度ニ付半片増徴

(五) ココア稅 一 封度ニ付六片(舊稅率ハ一片半)

(六) 咖啡及 Chicory 稅 一 封度ニ付六片(舊稅三片)

(七) 餘分利得稅 一 舊稅率五〇%ヲ六〇%ニ上ホス

三 右ノ如キ新稅及増稅ノ實行ハ現時ノ英國ニ

第三卷 (第二號二七一) 一一三

2) The Times, ibid.

在ツテハ寔ニ已ムヲ得ザル所デアツテ、彼ノ莫大ナル戰費ヲ償ハンガ爲メニハ國民ニ於テ此ダケノ負擔ヲ爲スハ元ヨリ覺悟ノ前ノ事ト云ハネバナラヌ。ケレドモ新ニ設ケラレタル諸稅目ヤ増徴ヲ見ルニ至ツタ諸稅ノ増徴率ヤニツイテハ其ノ一ツ一ツニ關シテハ多少ノ批評ガ行ハレテ居ルヤウデアアル。就中最モ大イナル批評ト疑問ノ標的トナツテ居ルノハ所得稅デアアル。

即チ所得稅ハ本年既ニ其ノ二割増徴ガ實行サルルニ至ツテ居ルノニ更ニ又之ヲ上ボサウトスルノデアツテ、新稅率ハ之ヲ戰前最後ノ年ノ率ニ比スレバ實ニ十四割ノ増加トナル次第デアアルカラ、之ハ餘リニ甚シイ増徴デアアルマイカトハ「タイムス」以下多クノモノノ大ニ疑問トスル所デアアル。甚シキニ至ツテハ、之ハ課稅ニ非ズシテ財産沒收ナリト絶叫シテ居ル。其等ニ關スル議論ノ方面ハ暫ク措キ之ヲ新稅法ノ下ニ於ケル實際ノ稅負擔ニ就イテ見ルト新所得稅法ハ隨分重イ負擔ヲ課スルモノタルヲ知ルコトガ出來ル。 Mc Kenna 氏ガ Leicester Harmsworth 氏ノ請

ニ依リ百五十磅以上十萬磅迄ノ各不勞所得額ニ對シ新稅法ノ下ニソガ所得稅トシテ負擔ス可キモノト過剩シュニユール、ヌツク稅トシテ負擔ス可キモノト四十歲ヲ標準トシ estate duty ノ用意ノ爲メニスルニ必要ナル「プレミアムス」トヲ合計シタモノヲ表ニ造ツテ示シタモノハ能ク此ノ稅負擔ノ程度ヲ例示スルニ足リル。其ノ典型的ナル課稅歩合ハ左表ノ如クデアアル。

所得	各一磅ニ對スル稅負擔歩合
一五〇磅	二・二〇
三〇〇磅	一・八〇
五〇〇磅	一・六〇
一、〇〇〇磅	一・五〇
五、〇〇〇磅	一・三〇
十、〇〇〇磅	一・二〇
十〇、〇〇〇磅	一・一〇

右表ノ例示スル所ニ依ツテ見ルト十萬磅ノ不勞所得ヲ有スル者ハ一磅ニ付キ十志(即チ半額也)以上ノ稅負擔ニ任スル譯デアツテ、「えこのみすと」誌ノ如キモ「たいむす」紙ノ謂フ所ニ裏書シテ之レ殆ンド財産沒收ニ近イモノデアルト道ツ

テ居ル。少クトモ英國ニ於ケル富裕者例ヘバ一年五萬磅ノ所得ヲ有スル者ハ佛國ヤ露國ヤ伊國ニ於テ同額ノ所得ヲ有スル者ヨリ五倍乃至十倍ノ重キ稅負擔ニ任ズルモノナリトセラレルノデアアル。而シテ此ノ戰時稅ハ舊來ノ地方ノ大地主ニ大恐慌ヲ起サシムルニ足リ田舎ノ大家ハ益以テ賣ル可ラザルモノトナルデアラウト述ベラレテアル。³⁾

消費稅ノ方面ニ關シテハ右所得稅ニ對スルホドノ議論ハナイガ、食卓飲料ト燐寸トノ課稅ハ少シク重キニ過グルトセラレテ居ル様デアアル。其他砂糖珈琲コゝあ等ニ對スル増稅ヤ發動機車及自働自轉車ニ對スル増稅ヤハ云ハバ豫期セラレタ所デアリ、芝居ヤ競馬等ノ遊興稅ハ正ニ然カアル可キモノトシテ一般ニ歡迎セラレテ居ル。而シテ鐵道交通稅ニ至ツテハ今ヤ國內外ノ旅行ヲ爲スモノハ遊山ノ爲メニスルハ少ク大抵ハ業務ノ爲メニスルノデアルカラ、之レニ新ニ課稅スルハ業務ヲ妨ゲ經濟上ニ不利ヲ齎スモノトシテ非難セラテアル。⁴⁾

要スルニ新稅法ニ對シテハ多少ノ非難ハアルケレドモ何シロ此國難ニ當ツテ一日五百萬磅ト云フ尨大ナル經費ヲ要スル次第デアリ、此ノ新稅法ニ依ル稅收入ノ増加ヲ得テ租稅總收入四億五千七百萬磅ヲ上ゲ得テモ尙ホ歲入總計ハ五億二百萬磅ニシカナラズ歲出總計十八億二千五百萬磅ニ對シテ十三億二千三百萬磅ト云フ莫大ノ歲入不足ヲ生ズル譯合デ之ハ公債ニ依リ支辨スルノ外ナキ狀態ナレバ、英國民ハ喜ンデ新豫算ニ依ル財政負擔ニ任ジャウト決心シテ居ルノデアアル。吾人ハ彼ノ驚ク可キ巨額ノ戰費ト之ヲ辨ゼムガ爲メノ大袈裟ナル豫算ト之ヨリ來ル財政負擔ニ甘ンジテ應ゼムトシ又之ニ應ズルノ能力アル英國民ノ富力トヲ見ルニ就ケテ、英國ノ未ダ容易ニ侮ル可ラザルヲ思フト同時ニ、其ノ財政經濟力ノ強大ニシテ根柢堅固ナルヲ日本國民トシテ羨望セザルヲ得ナイ。而シテ彼ノ所得稅ノ課率ニ至ツテハ、成程重イハ重イニ相違ナイガ、累進率ニ依ツテ富者ノ負擔ノ重イ様ニシ其ノ累進ノ度ヲ大ニスルコトハ今日ノ如キ國難ニ際

3) The Economist, May 27, 1916.

4) The Times, ibidem

シテハ特ニ必要デ又最モ正當ナ事デアアル。十萬磅ノ不勞所得アル者ガ一磅ニ付キ其ノ半額以上ノ稅負擔ヲ爲スガ如キモ格別怪ムヲ要セナイ。多額ノ不勞所得ヲ有スル者ハ所謂不勞シテ之ヲ得ル者デアリ、平素大イナル不勞利得ヲ得テ居ルノデアアルカラ、セメテハ國家財政難ノ時ニ當ツテ公共ノ爲メニ盡ス可キデアアル。不勞所得ハ事理ノ當然ヨリ云ヘバ全額國家若クハ地方團體ニ歸屬ス可キモノデアアルカラ、其ノ半額ヲ稅トシテ出スニ於テ固ヨリ彼此云フ可キ筈ノモノデハナイ。吾人ハろいど、ぢようぢ氏出納尙書ノ職ニ在ラストモ尙ホ能ク英國ノ政府ガ思切リテ斯カル政策ヲ敢テスルヲ得ル勇氣ト道念トヲ尊敬スルヲ禁ジ得ナイ。又彼ノ戰時餘分利得稅ノ如キモ其ノ六割ヲ徵スルハ頗ル當ヲ得タル課稅政策ト云ハネバナラス。我國ニ於テモ之ヲ鑑トス可キモノ少クナイデアラウ。(七月八日稿)